

東京都新宿区北新宿1-8-16
 東京土建一般労働組合
 電話03 (5332) 3971 (代表)
 FAX03 (5332) 3972
 発行人・編集人
 三木 勉

印刷部数11万1900部
 (購読料は組合費のなかに含まれています)
 (年間購読料 千八百円) 定価 五十円



東京土建のホームページ <http://www.tokyo-doken.or.jp/>

社会保障制度の拡充を求める請願
 「国の責任で社会保障制度の拡充を求める請願」署名を、5月通常国会での提出をめざして、3月末まで取り組んでいます。1人一枚(5人連記)、組織人員の2倍の集約目標です。ご協力をお願いします。

2020年を迎え、東京土建・支部で旗びらきや周年記念式典を開催しています。中小建設業従事者、国民の暮らしを良くする経済対策を求め、憲法改悪、消費税増税、社会保障改悪を許さず、仲間の要求実現へ向けて決意を新たに奮闘していきます。

仕事を、暮らし、平和を守ると決意



分会紹介のDVDを上映

多摩・稲城支部は1月12日に京王プラザホテル多摩で、旗びらきを兼ねた創立50周年記念式典・祝賀会を開催しました。来賓・組合員と家族を含め208人が集まり、2020年の門出を祝うとともに、支部創立からの50年を振り返り、これからのさらなる発展に向けての意思統一を行ないました。



新たに諸要求実現の決意を固め合った

東京土建本部は1月15日、新宿区のヒルトン東京で「2020年旗びらき」を開催しました。本・支部から258人、来賓130人の合計388人が参加しました。本部を代表して松丸一雄委員長があいさつし、「今、建設産業は大きな変化の中にあ

希望持てる建設産業へ

2020旗びらきに388人

り、組合運動が担う役割も大変重要になっていきます。建設産業の担い手、後継者の確保は喫緊の課題です。魅力ある希望の持てる産業となることを求められています。賃金・単価の引き上げ、現場の処遇改善、キャリアアップシステムの確立など前進させていきたい」と訴えました。

来賓からのあいさつは勝野圭司全建総連書記長、荻原淳東京地評議長の他、山添拓参院議員(共産)、曾根はじめ都議会議員(共産)、福島瑞穂参院議員(社民)、中山信行都議会議員・薄井浩一都議会議員(公明)、宮瀬英治都議会議員(立憲・民主)、増子博樹都議会議員(都民)ら各政党からありました。

北

**仲間づくりと組織建設
ワンチームで頑張る**

【北・書記・高橋伸明通信】1月9日、北とびあべカサホールにて2020年北支部旗開きを開催。多くの仲間と来賓を迎えました。小池書記長の司会により進められ、渡辺委員長からは「今年はオリンピックイヤー、北支部は外国人労働者の加入者数が全都でも多い支部です。組合員全員、外国人も含

めて昨年のラグビー日本代表のようにワンチームで頑張ろう。今年も仲間づくり月間や組織の課題などに引き続き協力をお願いします」とあいさつがありました。



鏡開きで新年のスタートを切った

また、れいわ新選組、日暮里建設業組合、小池百合子都

員(自民)、伊藤俊輔衆院議員(無所属)をはじめ、多くの来賓の皆さんからお祝いの言葉をいただきました。

【北・書記・高橋伸明通信】1月9日、北とびあべカサホールにて2020年北支部旗開きを開催。多くの仲間と来賓を迎えました。小池書記長の司会により進められ、渡辺委員長からは「今年はオリンピックイヤー、北支部は外国人労働者の加入者数が全都でも多い支部です。組合員全員、外国人も含

めて昨年のラグビー日本代表のようにワンチームで頑張ろう。今年も仲間づくり月間や組織の課題などに引き続き協力をお願いします」とあいさつがありました。

**「もつと大きくなる」
50周年を2008人で祝う**

多摩・稲城

笑って、1日楽しく過ごしていただきたい」と櫻井執行委員長があいさつ。多摩市の阿部裕行市長、小倉将信衆院議

の言葉をいただきました。三橋誠書記長によるこれまでの支部の歩みの読み上げ、分会紹介DVD上映の後、在

籍50年以上の仲間7人への永年者表彰が行なわれ、代表として稲城中央分会の長岡英夫さんが、「確か稲城の大丸の分量橋のそばのアパートで準備会をやりました。それから50年。あ

つという間でした。東京土建もこれからもっと大きくなると思いますが、それを楽しみにまた生きたいなと思いま

50周年を2008人で祝う

つと語られました。続いて、第2部の記念祝賀会に移り、鏡割りから中山昇前委員長の音頭による乾杯で勢いよくスタート。稲城青洲囃子保存会のオープニング、来賓紹介・あいさつ、どけんまつりDVD上映、アトラクションの稲城阿波踊りで盛り上がりは最高潮に。最後は進藤副委員長の閉会あいさつで、今年も良いスタートを切ることができました。

【ぼくはね、ついにわかったよ。ひとほなせ生きるのか。誰かを少しでも幸せにするためなんだ。社会をよくしたり、世界中のひとを幸せにできたならそれに越したことはないけど。たった一人のひとでもいいんだ。そのひとを少しでも幸せにするためにひとと生きるんだ】

■先月、亡くなったジャーナリストの北村肇さんの病床での言葉だ。北村さんは東京土建の機関紙コンクールで長年、審査委員を務められ、2011年7月の「けんせつ」2000号記念では次のようなメッセージを寄せてくれた。

「情報とは何か」と定義し直したところ、「生存確率を高める」情報が重要で、それは「けんせつ」紙面のアスベスト問題や平和問題などでもあるが、活字や写真で「仲間がいる」とを確認しあうことで、組合員に活力がわき、生存確率を高めている。

■北村さんにとって、「生存確率を高める」ジャーナリズムは、「誰かを少しでも幸せにする」という、人が生きる理由につながっていた。今月、日本政府は米国によるイラン司令官殺害で中東情勢が悪化する中、自衛隊の中東派兵を実施する。私たちの生存にとって危機を招きかねない状況となっている。平和で幸せな暮らしのために、伝えるべきことは伝えていきたい。